

農村の活性化と都市農業の理解
促進に向けた
新たな協同をめざして



第8号

2017年1月発行

JA都市農村交流全国協議会・会報誌

クロス・カントリー

——CROSS-COUNTRY——

平成27年度
JA都市農村交流優良活動事例 表彰式



JA都市農村交流全国協議会

ご挨拶

JA都市農村交流全国協議会の会報誌「クロス・カントリー」は、約1年半振りに第8号を発行するはこびとなりました。

今回は、協議会の活動報告としまして、

9月に開催した「情報・意見交換集会」と「訪日外国人基礎研修会」の報告を中心に掲載しております。

今後も、この会報誌は会員活動の一環として、協議会や会員活動の報告をはじめ、

各種の有意義な情報の提供や交流の活性化をめざし、コンスタントな発行を心がけていく所存です。

引き続きご愛読、よろしくお願いいたします。

JA都市農村交流全国協議会事務局

目次

1.協議会活動

- ① 2日間、集会と研修を実施…………… 3
- ② 情報・意見交換集会…………… 4
 - 表彰式
 - 記念講演「地域活性化と2020年東京オリンピック・パラリンピックを結びつけるJAグループの可能性について」
 - 全体討論（パネルディスカッション）
- ③ 訪日外国人受入基礎研修会…………… 7
 - 特別講演「訪日外国人の現状と今後の行動について」
 - 講演①「お土産の販売について」
 - 講演②「外国人旅行者の接客について」

2.平成27年度JA都市農村交流優良活動表彰事例の紹介

- 最優秀賞：JAおうみ富士「青空フィットネスクラブ」…………… 8
- 優 秀 賞：JA邑楽館林「日帰りグリーン・ツーリズムツアー」…………… 9
 - JA紀の里「フードトレイン 食育×旅育」

3.研修会・セミナーのご案内

- リスクマネジメント研修会【上級編】…………… 10
- JA都市農村交流特別研修・婚活支援セミナー…………… 11

4.お知らせ

- 協議会の活動支援WEBサイト「JOINTly GREEN」の活用について…………… 12

クロス・カントリー（CROSS-COUNTRY）とは

本誌のタイトル「クロス・カントリー」は、創刊号で募集し、会員様からいただいた応募作品です。愛称は「クロカン」。命名の趣旨は、単語そのままが思いです。カントリーは田舎をイメージすることが多いのではないのでしょうか。または、母国や故郷がイメージできる言葉でもあり、国産農産物や地産地消、地域食文化と馴染みやすい言葉です。

そのカントリーを縦横無尽に結びつけ、人の交流、ものの交流を有益に繋げることを意味しました。

本来は、オリンピック種目にもあるように、アップダウンある野山を一歩一歩踏みしめて進むことであり、農山漁村風景そのものをさしています。

2016年9月13日と14日の両日、東京・大手町のJ Aビルにおいて、JA都市農村交流全国協議会の「情報・意見交換集会」と「特別研修」が行われました。

第1日目の「情報・意見交換集会」は、参加者56名を集めて行われました。また翌14日は「訪日外国人受入基礎研修会」が、参加者22名を集めて行われました。



第1日目「情報・意見交換集会」表彰式



第1日目「情報・意見交換集会」記念講演



第1日目「情報・意見交換集会」パネルディスカッション



第2日目「訪日外国人受入基礎研修会」特別講演



第2日目「訪日外国人受入基礎研修会」講演①お土産の販売について



第2日目「訪日外国人受入基礎研修会」講演②外国人旅行者の接客について

●表彰式

J A都市農村交流全国協議会(林茂壽会長)は9月13日、平成28年度情報・意見交換集会を東京・大手町のJ Aビルで開催しました。

新たに設けた「J A都市農村交流優良活動事例」において、最優秀賞に滋賀県のJ Aおうみ富士の「青空フィットネスクラブ」を、優秀賞に群馬県のJ A邑楽館林「日帰りグリーン・ツーリズムツアー」と、和歌山県のJ A紀の里「フードトレイン 食育×旅育」を選出し(事例内容は8～9ページに掲載)、平成27年度表彰式を行いました。

林茂壽会長は挨拶で、第27回J A全国大会決議での、政府の「明日の日本を支える観光ビジョン」における訪日外国人旅行者の増加などにふれながら、「本協議会の事業活動はますます重要になってきている」ことを強調しました。

審査委員長を務めたJ A全中の加賀尚彦常務は講評の中で、審査・採点につきまして、次の4点に留意したことを明らかにしました。

- ①J A事業の拡大に向けて先進性が感じられるか。
- ②取り組みのきっかけと目的がはっきりしているか。
- ③取り組みの効果がJ Aやファンの拡大や地域の活性化、組合員メンバーシップの強化につながっているか。
- ④今後の課題をしっかりと理解・把握し、目指す方向性が明確になっているか。

●記念講演

「地域活性化と2020年 東京オリンピック・パラリンピックを結び付けるJ Aグループの可能性について」

講師：農林水産省 食料産業局 日本食普及推進専門官 金築道弘氏

現在我が国では、訪日外国人の農山漁村への呼び込みと輸出拡大の一体的推進により、農山漁村の所得向上や雇用創出に寄与するよう目指しています。

平成25年に和食文化がユネスコ無形文化遺産に登録され、海外では和食への興味が増えています。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、和食文化を通じた食の需要増大の機運をいかに一気に強化していくかが課題です。



最優秀賞・J Aおうみ富士「青空フィットネスクラブ」

●J A都市農村交流優良活動事例 審査委員メンバー

農業協同組合

花巻農業協同組合 常務理事 阿部 勝昭

セレサ川崎農業協同組合 常務理事 松原 功典

都道府県農業協同組合中央会

京都府農業協同組合中央会 専務理事 牧 克昌

J Aグループ全国機関

一般社団法人家の光協会 代表理事専務 高杉 昇

株式会社 日本農業新聞 常務取締役 穴久保光雄

株式会社 農協観光 常務取締役 大野 哲也

全国農業協同組合中央会 常務理事 加賀 尚彦

(審査委員長)

(敬称省略)

海外に向けては、日本食・食文化の魅力正しく普及し継続的に普及継承される仕組みを構築する必要があります。海外における日本食レストランが2015年で約8.9万店と急増して



います。そんな中、海外での日本料理の調理技能認定制度や、海外日本食レストランなどをネットワーク化し輸出促進の拠点とするための「日本食材サポーター店制度」を28年度より運用開始しました。

訪日外国人の農山漁村への呼び込みについては、訪日外国人旅行者は2012年で836万人、2015年で1974万人と増加しております。政府は「明日の日本を支える観光ビジョン」で、「訪日外国人旅行客を2020年に4000万人。2030年には2015年の約3倍の6000万人に」。「地方部での外国人延べ宿泊者数7000万人泊を2015年の約5倍の1億3000万人泊に」。「外国人リピーター数2400万人を2015年の約3倍の3600万人にする」という目標を掲げました。

訪日外国人旅行者の主な動機は気候、自然、文化、食事と言われ、期待事項の1位は「日本食を食べること」です。初回訪日時は難しいとしても2回

目以降いかに農山漁村に来てもらうかが課題となります。地域の食、郷土料理、それを支える農林水産業や文化を一体的にプロデュースして海外に情報発信することで、リピーターなどに届くのではないかと考えております。そうした取り組みの中で特に優れたものを「食と農の景勝地」として認定する仕組みを創設しました。

以前から推進しているグリーン・ツーリズムと農家民泊も、国内外からのニーズは多くなってきています。しかし長期滞在を含めたプランは少なく、うまくコーディネートできている地域が少ないのが実情ではないかと思われます。そのコーディネート機能がJAグループに期待されています。地域で協議会などを立ち上げ、地域全体としてのプロデュースに積極的に取り組まれるよう期待しています。

● 全体討論 (パネルディスカッション)

「直売所を拠点とした交流事業の成果と課題」

コーディネーター：(株) 農協観光 営業企画部 執行役員部長 齋藤充利氏

「直売所を拠点とした交流事業の成果と課題」をテーマとする全体討議 (パネルディスカッション) では、有意義な情報や意見の交換が行なわれました。まず受賞3JAの取組み内容 (詳細は8~9ページに掲載) が紹介され、その後の発言の一部を要約しました。



パネリスト

和歌山県 JA紀の里 常務理事 大原 稔氏
滋賀県 JAおうみ富士 代表理事専務 木村 義典氏
群馬県 JA 邑楽館林 常務理事 阿部 裕幸氏
農林水産省 食料産業局 日本食普及推進専門官 金築 道弘氏
JA全中 組合員・くらしの対策推進部長 西野 司

<連携・コラボを積極的に>

齋藤 (コーディネーター) : 連携やコラボについての考え方は?

阿部 (群馬県・JA 邑楽館林) : 都市農村交流は、JAグループだけではなく多くの方との連携が必要不可欠。JA間では、JA東京中央と連携したグリーンツーリズムが双方に成果をあげている。地域の大学等とも積極的に連携し加工品開発にもつな



がっている。

大原(和歌山県・JA紀の里) : 漁協や森林組合ともつながりたい。直売所間で30以上のJAと物のやりとりはしているが人の交流はないことも課題だ。インフラ整備も重要で、直売所は免税店資格をとり、wi-fiスポット、電気自動車の充電スタンドも設置。当地までの交通手段も改善したい。



大原 稔氏



木村義典氏

木村(滋賀県・JAおうみ富士) : 青空フィットネスクラブは、消費者会員と集落営農組織・農家をつなぐJAの役割が大きい。コープしがの組合員対象に年9回行っている農業体験では、特に熱心な組合員が「ファーマーチャレンジ隊」を結成し、JAで本格的な営農学習を行っている。守山市と連携した農業体験も行っている。管内営農組合と連携した消費者交流・新規就農者育成施設の設置も計画している。

金築(農水省・食料産業局) : 地域の食と伝統工芸品の連携も考えられる。海外で弁当ブームになりつつある中、弁当箱をからめたコラボもできそうだ。

<活動のターゲットは?>

齋藤: 次に、地域に呼び込む対象者について。

大原: まずは、来て立ち寄っていただいて、食べていただくことが次につながる。食を文化として楽しんでもらえるよう、ニーズに応じたターゲットを絞り込んで取り組むことが大切だろう。

木村: 青空フィットネスクラブの参加者は大きく分けて直売所利用者・会員、コープしが組合員の2タイプ。当JAだけでは対応しきれなくなり、県内JAに声をかけ3JAに広がっている。アクティブメンバーシップを意識して准組合員・地域住民に重点を置くなどターゲットを絞ることも大切。いかに収益につなげていくかも課題だ。

阿部: 都市農村交流事業では都市住民、次世代を対象の根底としてきた。次のステップとして、地域には員外の方が多いため、気軽に立ち



阿部裕幸氏

寄れる直売所「ぼんぼこ」に来てもらいJA事業を紹介することも考えたい。「ぼんぼこ」のコアなファンが生産者に転化する現象も起きている。

西野(JA全中) : 直売所は地域住民にとって一番身近



西野 司

なJAとの接点だが、JAの施設だということを知らない方も多い。いかに認識してもらうかが課題だ。アクティブメンバーシップ確立へは、不特定多数向けのイベントとあわせて特定少数に向けた体験農園、協同組合塾等の活動を積み重ねることも重要だろう。

<今後の方向は>

齋藤: 今後の展開は?

木村: 守山市の協力を得て現在、自転車で琵琶湖を一周する「ピワイチサイクリング」の集客と、土産や栄養補給用加工品づくりに挑戦している。

阿部: JAには信用・共済・購買・販売という大きな4つの柱があるが、5つ目の柱ができなければ国に評価をもらえないのだろう。その意味も含め都市農村交流事業を大きくしていきたい。

大原: 都市農村交流、インバウンド、アクティブメンバーシップ等の諸対策を総合的に実行していきたい。思いを共有・共感できる他業態とのネットワークを作りたい。



金築道弘氏

金築: トライアンドエラーの中で、こんな制度・仕組み・事業があればという要望をいただければ私たちも施策に反映できるよう精一杯頑張っていく。

西野: 阿部常務がJAの5つ目の柱にしていかなければと仰った通りだと思う。今年度からのこの表彰制度で、3JAに続くJAが出てきてほしいと願っている。

齋藤: 国が地方創生を推進している機運に乗って交流活動を活発にしていけたらと思う。

JAグループの一員として、農協観光もお役に立てるよう頑張っていく。

(以上、発言部分の敬称は省略させていただきました)

9月14日には、JAビル36階・大会議室において平成28年度JA都市農村交流特別研修「訪日外国人受入基礎研修会」を行いました。

初めにJA全中 組合員・くらしの対策推進部 西野司部長より情勢報告があり、本協議会事務局より、協議会の活動報告をいたしました。

続いて、観光庁の観光資源課 課長補佐 太田雄也氏より「訪日外国人の現状と今後の動向について」ご説明をいただきました。

午後は、訪日外国人観光客へのサービスという

観点から、直売所やファーマーズマーケットなどの店舗側の準備など「お土産の販売について」JSTO 協会員 神林淳氏よりご講義いただきました。また、株式会社ライフブリッジ 代表取締役社長 櫻井亮太郎氏の「外国人旅行者の接客について」の講義では、対訪日外国人観光客との販売時でのコミュニケーション能力向上に役立つ具体的な情報をいただきました。説明後に1人が顧客役、1人が販売員役となりロールプレイング形式での実践対話を行いました。



●特別講演 「訪日外国人の現状と今後の動向について」

講師：観光庁 観光資源課 課長補佐 太田雄也氏

年々訪日外国人旅行者数が上昇傾向である中、都市部や観光地に集中している。それ以外の地域や農村への誘客として古民家を活用した魅力ある観光や体験プログラム・名産品の開発など地域資源を活用した創造事業がもとめられていることなどをご講義いただきました。

●講演① 「お土産の販売について」

講師：一般社団法人ジャパンショッピングツーリズム協会（JSTO）協会員 神林 淳氏
訪日外国人旅行者から見た「日本の魅力」や商品の提案とファーマーズマーケットの受入れ環境の整備についてご講義いただきました。



●講演② 「外国人旅行者の接客について」

講師：株式会社ライフブリッジ 代表取締役社長 櫻井亮太郎氏

訪日外国人旅行者へのおもてなし研修として櫻井先生独自の接客英語についてご講義いただき、その後1対1（店員役×訪日外国人旅行者役）での接客を想定したロールプレイングを行いました。



JA都市農村交流全国協議会事務局 西野 司
(JA全中 組合員・くらしの対策推進部 部長)



JA都市農村交流全国協議会事務局 大塚史敬
(JA全中 組合員・くらしの対策推進課)



最優秀賞：滋賀県・JAおうみ富士「青空フィットネスクラブ」

JAおうみ富士 代表理事専務 木村義典氏

滋賀県・JAおうみ富士は「つくる・食べる・つなげる」をコンセプトに「食と農のハブ拠点づくり」をめざす「ファーマーズマーケットおうみんち」を2008年5月オープンしました。更に「あぐりタウン構想」を掲げ、その第一歩として食農展開をしたのが2012年に本格稼働を始めた「青空フィットネスクラブ」です。さまざまな団体と交流・連携や英語表記のチラシを作成し訪日外国人旅行者受入れにも取り組んでいます。

●誰もが一日農作業者に

「青空フィットネスクラブ」は消費者が「1日農業者になれる地域ぐるみの新たな農村おもてなしサービス」です。年数十回開催し、長靴、軍手、農具などはクラブで準備し、参加者は農作業ができる服装で来るだけでよいという手軽な取り組みです。田植えから稲刈り、野菜や花の定植から収穫、芽かきや土寄せ等の中間作業などもできます。

参加者費用は500円で、収穫した農産物が一袋分持ち帰れます。「フィットネス」の名の通り万歩計で2000歩ごとに休憩を取り健康管理に努めたり、歩数カウント100歩を1ポイントに、「健康マイレージ」としてJA総合ポイントに付与しています。

●「農作業もっとやりたい」に答えて

活動のきっかけは、オープンした「おうみんち」の品揃え対策でした。

出荷会員に、朝出荷の品物が売り切れたと伝えても「よかった。今日は夕方取りに行かんでええわ」となり、午後の販売台が空になることも。そこで始めたのが、近隣に借りた圃場から野菜を直接収穫してもらう「畑の直売所」という取り組みでした。

収穫した物を300円か500円の袋に詰めてもらい、畝ごとに一つずつ収穫していくと鍋の具材がそろって「鍋畑」も始めました。利用者からは「楽しい。

もっとやりたい」という声が聞こえ、圃場を広げていきました。収穫作業で汗をかくことから「アグリフィットネス」となり、さらに「いい天気なんだから青空でしょ」と「青空フィットネスクラブ」となりました。利用者50人程でスタートし、現在は約330人に拡大しています。



●「食と農のハブ拠点」として

ファーマーズマーケット「おうみんち」は、登録出荷会員約600名で、加工施設やバイキングレストランなどもあります。「青空フィットネスクラブ」の昼食でも利用され、運営している農村女性による食文化体験なども行っています。インバウンド対応のため、(公社)びわこビジターズビューローの会員となり「食と農」に特化した交流・体験を軸に受入体制の強化を図っています。開店以来、「おうみんち」の売り上げは微増を続けており、生産者と消費者の相互理解や協力も進んでいます。

●生産者と消費者のニーズに合致

消費者との交流・体験を通じてファーマーズマーケットを盛り上げることで、JAファンづくりにもつながっています。発想のベースは高齢化や後継者難で手が足りず、遊休農地も出るという農業現場に「援農」という思いが重なりました。しかし、消費者には農業体験を望む思いが想像以上にあり、生産者と消費者双方のニーズがうまく合致する活動になりました。こうした活動を通じて、農業、JAおうみ富士を理解してもらうことができ、収穫までの苦労を知ってもらうことが、地域やひいては日本の農産物を愛してもらうことになり、最終的には農家所得の向上につながればと思っています。





優秀賞：群馬県・JA 邑楽館林「日帰りグリーン・ツーリズムツアー」

JA 邑楽館林 常務理事 阿部裕幸氏

JA 邑楽館林では、JA 東京中央、学校法人食糧学院、都内大学などと連携し、都市住民の農業体験を受入れ、地域活性化やJA、農業のファン拡大を図っています。地域大学との連携で、若い世代向け農業体験プログラムを作成、実施しています。東京の栄養士・調理師専門学校と連携し、地元産物で「鍋つゆの素」を開発し、地元企業で製造、商品化に結びました。

直売所などを拠点に、都市住民と収穫体験やソーセージ作りを行ったことをきっかけに、地域資源を活用した農業体験、料理づくり、JA 施設見学などを組み込んだ「日帰りグリーン・ツーリズムツアー」を平成22年に開始し、平成27年度は年9回で延べ約900人が参加しました。当JAを中心に行政や観光協会、JA 青年部、JA 女性部と「邑楽館林都市農村交流協議会」を組織し活動しています。

●連携・コラボについて

都市農村交流は、JAグループだけではなく多くの団体・組織との連携が不可欠です。JA 東京中央と連携したグリーン・ツーリズムは双方で成果をあげ、地域の大学との加工品の開発など、積極的に連携しています。都市住民、次世代を対象とし

て、気軽に立ち寄れる直売所「ぼんぼこ」のコアなファンが生産者に転化する現象も起きています。信用・共済・購買・販売に次ぐ5つ目の柱として、都市農村交流事業を大きく発展させていきたいと考えています。



優秀賞：和歌山県・JA 紀の里「フードトレイン 食育×旅育」

JA 紀の里 常務理事 大原 稔氏

JA 紀の里は、さまざまな地域企業・団体・教育機関と連携し交流事業を展開しています。鉄道会社「JR 西日本」との新たな連携では、親子を対象に車両を貸切り「クイズ」や「食育漫才」「食育マジックショー」など多彩な企画を用意しています。一日を通して「食」や「農」「人とのふれあい」を意識してもらう内容で地域の活性化につながるカリキュラムとなっています。

「フードトレイン 食育×旅育」は、駅見学や乗車体験などの「旅育」に取り組んでいるJR 西日本とのコラボで誕生しました。果樹生産地域として、JR 和歌山線と沿線地域の農業・農村の活性化を目的としています。貸切車両での移動中にも地域の魅力を伝えているほか、みかんの収穫体験、直売所「めっけもん広場」での食育などを行っています。農業体験参加者による「あぐりんクラブ」は若い家族を中心に327家族が加入し、楽しさをSNSで発信・拡散してくれています。

●連携・コラボについて

漁協や森林組合との連携も望んでいます。直売所間で30以上のJAと品物は動かすが人の交流が希薄です。インフラの整備にも力を入れ、免税店資格の取得、wi-fiスポット、電気自動車の充電スタンドも設置しています。まずはお客様に立ち寄ってい

ただき、食を文化として楽しんでもらえるよう、多様なニーズに応じた対応を大切にします。

都市農村交流、インバウンド、アクティブメンバーシップ等の諸対策を総合的に実行し、思いを共有・共感できる他業態とのネットワークを作っていくと思います。

1. 開催主旨

農山漁村での体験活動を実施する上での安全管理について実践的な知識を習得できる研修です。リスクマネジメントの専門家を招き講義やワークショップを通じリスク対策を学びます。

2. 主 催

一般社団法人全国農協観光協会

3. 開催日程

平成29年2月16日(木)～2月17日(金)

1日目:13時～17時 2日目:9時～15時

4. 開催場所

国立オリンピック記念 青少年総合センター (<http://nyc.niye.go.jp/>)

(小田急線参宮橋駅より徒歩3分)

5. 対象者

受入農林漁家・協議会、教育関係者、農山漁村・自然体験指導者、都道府県・市町村の職員及び関連団体、その他上記対象者以外でも関心のある方など

6. 定 員

40名 ※定員になり次第、締め切らせていただきます。

7. 研修内容

【上級編】基本編を踏まえ、事故事例の分析から対応策の策定や保険の付保について学び、各組織・団体及び地域協議会で、オリジナルの「安全管理マニュアル」の作成が出来るような内容となっています。特に、ワークショップを実施することにより、課題の設定から解決まで導ける内容を実践します。

【1日目】

①リスクマネジメント概論について

②安全管理マニュアルの作り方

【2日目】

③保険について

④ワークショップ(例:農業体験中の事故対応)

※詳細は別紙チラシをご参照下さい。

8. 研修費用(消費税込) 【上級編】 26,000円(税込)

9. 研修申込締切日 平成29年2月8日(水)

10. 申し込み方法 ※別紙チラシをご参照ください。

..... 本件に関するお問い合わせ

一般社団法人 全国農協観光協会 担当: 青木、清水
〒101-0021 東京都千代田区外神田1-16-8 Nツアービル4階
Tel.03-5297-0323/Fax.03-5297-0260
E-mail: zennoukan@i-znk.jp

1. 開催主旨

人口減少社会の対策として、取組みが活発化している自治体やJ A等による婚活事業への取組みに対する重要性および関心の高まり等を受け、全国の取組みの情報共有および知識・ノウハウの習得を目的として、婚活に関連する各業界と連携したセミナーを下記のとおり開催します。

2. 主 催

全国農業協同組合中央会、J A都市農村交流全国協議会、株式会社農協観光

3. 開催日程

平成29年3月3日(金) 10時30分～17時30分 ※17時45分～19時30分は交流会

4. 開催場所

Nツアービル8階 会議室
〒101-8613 東京都千代田区外神田1-16-8
JR秋葉原駅電気街口改札より徒歩1分

5. 対象者

婚活事業に取り組んでいるまたは今後取組む予定のJ A・中央会・連合会の担当者

6. 定 員

40名 ※定員になり次第、締め切らせていただきます。

7. 研修内容

別紙「開催要領」をご参照ください。

8. 研修費用(消費税込)

(1) Aコース(セミナー+交流会)	①J A都市農村交流全国協議会会員	お一人様 3,000円
	②J A都市農村交流全国協議会会員外	お一人様 8,000円
(2) Bコース(セミナー)	①J A都市農村交流全国協議会会員	無料
	②J A都市農村交流全国協議会会員外	お一人様 5,000円

※消費税、昼食、資料代、講師料含む(Aコースは交流会代も含む)

9. 研修申込締切日

平成29年2月15日(水)

10. 申し込み方法

研修会システムまたはFax・e-mailにてお申し込みください。

[全中研修会システム(URL: <https://gnw.zenchu-ja.or.jp/janet/>)]

(県域によって、下記のいずれかの対応が基本となります)

(1) 中央会によるとりまとめを行う県下の会員等

県中央会が示す方法に従ってください。

※J Aから中央会の申込について、別紙「開催要領」にある「参加申込書」をご活用ください。

(2) (1) 以外(個々の会員による直接入力)

各会員が研修会システム上において、必要な事項を入力してください。

(3) (1) (2) 以外(全国機関等)

別紙5「参加申込書」にて、Fax又はe-mailにてお申し込みください。

※研修会システムについてご不明な場合は、都道府県中央会までお問い合わせ下さい。

11. 費用の決済方法

請求システムを活用して振替決済を行います。引落し実施予定日 平成29年4月27日(木)

※研修会システム以外でのお申込みの場合は別途請求書を送付いたします。

..... 本件に関するお問い合わせ

J A都市農村交流全国協議会事務局(J A全中 組合員・くらしの対策推進課 担当: 大塚、寺田)

Tel.03-6665-6240/Fax.03-3217-5073 E-mail: ja-koryu@zenchu-ja.or.jp

年々件数が増えてきておりますWEBサイトの活用についてのご案内です。

都市と農村の交流をはじめ、様々な交流がありますが、不特定多数の地域内外の住民の方々の参加を募る企画も多数あると思います。例えば、JAまつりや農業体験、料理教室、さらには直売所イベント、観光農園など情報の拡散による集客強化は重要な要素と言えます。

そのための集客対策の新たな手法としてWEBサイト「JOINTly GREEN」(ジョイントリーグリーン)をご紹介します。

<http://green.jointly.hyakuren.org/>

●無料で手軽に利用できるシステム

当サイトは、イベント主催者がいつでも手軽にイベント情報をWEBサイトへ登録し掲載できるシステムです。

ネットで情報を得る次世代への情報発信としても有効な手段が、無料をご利用いただけます。

●業務軽減にもお役立ち

また、有料サービスとなりますが、「受付代行」の機能があります。この機能は、掲載したイベント情報のページから参加受付を出来るものです。WEBでの受付業務のイベント主催者のメリットとしては、従来電話での受付と比較すると、

- (1) 電話対応時間の軽減
- (2) 予約受付可能人員設定がシステム管理のため、予約超過の防止
- (3) 受付データが電子データ管理のため、名簿作成の業務が軽減など業務効率化・軽減につながります。

●本協議会会員特典

当システムの活用にあたっては、本協議会の会員特典として、システムへの情報登録を事務局で代行いたします。

掲載したい情報のチラシや要望などもメールやFAXで事務局宛に送っていただければ結構です。

どしどし情報をお寄せください。

JA交流事業 ネット掲載料無料！ ネット配信による広範囲集客システム
食と農の交流サイトが都市と農村を繋げる

【ジョイントリー】
**JOINTly
GREEN**

募集イベントの集客増！
新規のお客様の集客！受付業務の効率化！
イベント情報発信サービス



JA都市農村交流全国協議会 事務局 (JA全中 組合員・くらしの対策推進課)

〒100-6837 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル

HP: <http://ja-koryu.com/> Tel.03-6665-6240(代) / Fax.03-3217-5073

E-mail: ja-koryu@zenchu-ja.or.jp 担当: 大塚

*掲載内容に関するご意見・ご質問など、お気軽にお問い合わせ下さい。

